

平井元喜

Motoki Hirai
●ピアノ

取材・文=上田弘子
写真=竹原伸治



評判を呼んでいる「平井元喜ワールドツアー2016」 自作曲では小倉百人一首を題材に

父はチェリストの平井丈一郎、兄

作誕生に至った。

は指揮者の平井秀明。ピアノをはじめ音楽全般は祖父である作曲家の平井康三郎から学び、ヴァイオリンは桐朋学園大学名誉教授の祖母の平井友美子に習ったという、まさにサラブレッド。しかし音楽を強要されたことはなく、慶應大学に進学。しかし音楽家のDNAが動き始める。渡英し、王立音楽院やロンドン・シティ大学で研鑽を積み、以来ロンドンを拠点にしている。

「海外に居て感じる日本ですか？自然の美しさと人の素晴らしさを特に強く感じます。日本は多神教だからなのか、自然を敬うことが信仰心に繋がっている気がします。宗教の教えというより、天の神様が見てるとか罰が当たるとか、具体的な何かではなくて、すべては自然界の真理。そういう鋭い感性は日本人独特のものだと思います。だから百人一首のようなものが生まれ、現代でも新鮮な名作なのではないでしょうか」

『平井元喜ワールドツアー2016』では小倉百人一首を題材に自作曲を披露。小倉百人一首の撰者で歌人の藤原定家ゆかりの冷泉家。その冷泉家第24代の為任の長女、冷泉貴実子と平井は親交があり、今回の新

■公演情報

リサイタル〈日時〉7月1日
19時〈会場〉王子ホール〈曲目〉ベートーヴェン「ピアノ・ソナタ第27番」、シューベルト「ピアノ・ソナタ第21番」、平井元喜「小倉百人一首による〈音詩〉」〈Grace & Hope～祈り、そして希望〉、ショパン「マズルカ第41番」「ノクターン第4番」「スケルツォ第2番」〈問合せ〉ミリオンコンサート協会
03・3501・5638

「冷泉貴実子さんに10個の歌を選んで頂き（皇太后宮大夫俊成、権中納言定家、紀貫之、他）、その歌からのインスピレーションで曲を付けました。音楽は生き物なので、ロンドン（3月3日）、アムステルダム（4月9日）、ウィーン（4月28日）の公演ごとに曲も固まってきた感触があって、と同時に固めすぎず即興部分も残しています。東京公演では冷泉さんをゲストにお招きします」

海外公演ではやはり反響が凄かったようだ。自作曲の前後にベートーヴェン、シューベルト、そしてショパンを演奏。

「今回のワールドツアーでは初のウィーン公演、つまりウィーン・デビューなので、多くの作曲家たちが足跡を刻んだ国に因んだ選曲にしました。自作曲は楽器を超えられるところがあります。やはり楽聖の作品には責任が伴います。でも大作曲家として人間ですから、聴衆は自由な発想で聴き楽しんでもらいたいです」

3月11日生まれの平井。ヒューマンな視野は、国内外でのボランティア活動にも積極的。折々のフォトエッセイも評判である。